

令和3年度
第4回堺市堺区政策会議
議事概要

行政資料番号 1-C8-21-0267

令和3年度 第4回堺市堺区政策会議 議事概要

開催日時 令和4年3月25日（金） 午後2時00分から午後3時15分

開催場所 堺市役所 本館3階 区役所会議室

出席者 紅谷座長、大佐古構成員、川崎構成員、柴藤構成員、田邊構成員、橋本構成員、
水谷構成員、宮里構成員、

欠席者 湯井職務代理者、安田構成員

○議事概要

第3回会議での意見の振り返り、令和3年度堺市堺区政策会議のまとめ（案）及び次年度の取組について

○資料の説明及び質疑応答

【将来の担い手の育成】

- ・先日の宮城県の地震で「日々訓練のおかげで素早く対応できた」という声を聞き、日ごろから訓練が大切だと改めて思った。防災出前講座を行ったり、防災士の資格取得を促したりするなど、防災意識を向上させるような企画ができるといいと考えている。
- ・自治会への参画を促す意味においても、次の防災の担い手となる中学生を対象とした防災の取組には期待している。
- ・防災に取り組むことは「手間に見合うメリットがない」という声も聞くが、防災についての知識を身につけることはやはり大事だと考える。防災士会の活動として、防災訓練の支援等を行っているが、小学生が自分の学校にある防災倉庫や災害時の給水設備、防災トイレのことが知らないことが多い。これら防災施設のことを知ってもらうことが防災の第一歩である。

【地域防災力の強化】

- ・平成30年の台風21号での関西空港連絡橋の被害、それに伴う単線運転やバス代行運行は自らが経験した災害対応で最も大規模なものであり、その後被害を小さくすることができるよう取組を進めている。一方で自治会や企業をはじめとする地域の方々との連携した取組も充実させることが重要と考える。
- ・災害時での従業員の避難、帰宅抑制のための備蓄、事業継続のためのBCP（事業継続計画）などに会社の防災担当として約6年取り組んできているが、今後は地域との連携を進め、地域と助けあういい関係を作っていきたいと考えている。

【誰一人取り残さない防災体制の構築】

- ・災害時、迅速に情報を収集し、外国人観光客が安全かつ的確な避難行動ができるよう多言語での情報発信を強化していきたいと考えている。また、災害情報や避難場所の情報が一元化された情報発信サイトがあればよりタイムリーな情報提供が可能ではないか。
- ・単身高齢者や外国人在住者への対応が重要。特に単身高齢者対策としては、校区の福祉委員や老人ホームなどと防災訓練で関わるなど、福祉関係者との連携が必要になってくる。
- ・宿泊者は防災をあまり意識していない。堺区域にくわしくない宿泊者に対し、災害時に従業員が的確に対応するため、防災知識の向上を図っていくことが重要である。そのため、この会議を通じて知りえたことなどを従業員に伝えることで防災意識の向上につなげている。この流れを受け、従業員3名が防災士資格講習を受講予定である。
- ・コロナ収束後の国内外の観光客の動きを見据え、災害情報のリーフレットなどを通じた宿泊客へのアナウンスなどを強化したいと思うので連携していきたい。
- ・海外からの観光客、技能実習生、障害者、支援学校生などを含め、誰一人取り残さない防災をどうすれば具体の形あるものとしてできるか、考えていきたいと思っている。
- ・地震などを知らない外国の方もいるので、災害発生時に何もわからない状況で混乱する事態に陥ることが考えられる。そのような人に対し、わかる形でどう発信していくのかを考えていきたい。

【全般】

- ・風水害や地震の災害だけでなく、猛暑や厳寒などの気候的側面も考慮した事態を想定して準備や訓練を行っていくことが必要である。
- ・海側と東側で課題、取組内容はかなり異なってくることも含め、堺区の防災の取組体制を揃えていくことに取り組んでほしい。
- ・新組織を立ち上げるにあたっては、危機管理室との連携を綿密にとっていく必要がある。また、最初に行政で線路を敷くことで、自ら取組が進んでいく事例もある。最初の活動の背中を押すような働きを期待する。今回提示のあった内容だけでなく、地域の防災のニーズを捉え、様々な局面できめ細かく、柔軟に対応して行ってほしい。
- ・バーチャル版地域防災テラスとあるが、始めからこの形で進めるのではなく、フェイスブックでコメントを述べるというやり方もある。メンバーを登録すれば、自ずと交流があるわけではないので、行政の職員は、防災の関係者が積極的に関わることができるよう、つながることができるようコーディネーターの役割を果たしてほしい。